

## 平成23年度 第1回花見川区公民館運営審議会議事録

第1 日 時 平成23年5月26日(木) 午後1時30分～午後3時30分

第2 場 所 幕張公民館 講習室

第3 出席者 (委員)(定足数8名>7.5名=15名/2)

出 席・・・14名

新田委員長、田中副委員長、竹内委員、加瀬委員、鶴岡委員、小嶋委員、吉田委員、  
大矢委員、東野委員、服部委員、鈴木委員、門脇委員、實川委員、平山委員

欠 席・・・1名

花島委員

〈事務局〉

笹本館長、松尾副館長(幕張)、渡貫館長(花園)、平川館長(犢橋)、田中館長  
(検見川)、小原館長(花見川)、篠崎館長(さつきが丘)、小出館長(こてはし台)、  
和田館長(長作)、石井館長(朝日ヶ丘)、秋元館長(幕張本郷)、永田主任主事  
(幕張)

### 第4 審議会の概要

#### 1 議事録署名人の選出

(1) 加瀬委員、鶴岡委員が議事録署名人に指名された。

#### 2 区内公民館事業及び区事業の平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画について

(1) 松尾副館長及び各館長より、各公民館の主催事業の平成22年度事業報告と平成23年度事業計画を併せて説明した。

(2) 笹本館長より花見川区事業の平成22年度事業報告と平成23年度事業計画について併せて説明した。

### 第5 審議会前・事務経過

#### 1 配布資料確認

#### 2 議事進行についての説明

#### 3 傍聴人の入室・・・なし

### 第6 審議会・会議経過

#### 1 開会のことば(進行 松尾副館長)

#### 2 委員長あいさつ(新田委員長)

3 規定により、議長は委員長、副議長は副委員長が務めることになっており、それぞれの席に着く。

4 議事録署名人として、加瀬委員、鶴岡委員を選出した。

5 議題（審議事項）

(1) 承認事項 議案第1号 平成22年度事業報告について（奇数ページ）

(2) 報告事項 平成23年度事業計画について（偶数ページ）一括して、資料1～21ページに基づき、提案・説明した。

松尾副館長と各館長 各公民館の平成22年度の事業報告並びに平成23年度事業計画を説明した。

笹本館長 区事業の平成22年度事業報告、並びに平成23年度事業計画を説明した。

委員長 報告事項について意見を求める。

委員 一時期と比べると事業数が大分回復してきており、各館長の努力のあとがうかがえる。ただ、公民館の利用者数が減ってきているようであるが、その原因は何か。

委員 私の近くにはコミュニティセンターがあり施設自体がすばらしい。近くにそういう所があるとどうしても施設面での影響があるのではないか。

事務局 各々のサークルの構成を見ると、高齢化してきており、解散や休止になるサークルがある。それも一因にあると思われる。

委員 サークルに入りたいという希望者がいても、サークルのレベルについていけないし、そうすると会員が減って新陳代謝ができなくなり、やがて世話役が面倒見切れずサークル自体が消滅してしまう。主催事業で新しくサークルができる環境作りが必要だ。それと、自治会や市の防災担当課などとの共催で防災の講座を実施する予定はないのか。

事務局 先日の震災を受けて、防災に関する講座をできる限り実施しようということで動いているが、今年度の事業は予算を組んで始まったばかりなので、今後状況を見ていつ実施するか各館で検討しているところである。

委員 実施する場合は、一歩進んで避難経路や避難場所の

確認、場合によっては公民館の調理室等で炊き出しを体験するのも良いのではないか。

事務局 毎年、避難訓練はクラブ連協等との合同で実施しており、そういったのを引き続き行っていきたい。

委員 私のところの自治会は約970世帯あり、毎年近くのゴルフ場の協力を得て避難訓練を実施している。

委員長 今回の震災ではそういうことを普段から行っている地域では比較的、津波に巻き込まれずに助かったという事例も紹介されている。訓練というのは大事なことだと思う。

委員 今後も大きな地震があるだろうとは皆、共通認識を持っている。想定される事態について防災担当課がきちんとしたものを示して、その中で我々がどういう行動をしていくかということを具体的にやらないといけない。

委員長 そういった問題を議論するとなかなか先が見えなくなる。ここでは防災に関する講座をできるだけやってほしいということで留めておく。他に意見はないか。なければ平成22年度事業報告について承認してよいか。承認であれば拍手をお願いしたい。

— 拍手を持って承認の意思を表明 —

委員長 承認とする。次に平成23年度事業計画について意見を求める。

委員 公民館の主催事業からサークル化させるよう、意図的に講座を組むのは重要なことだと思う。

委員長 サークルが高齢化してきている中で、新しい人は既存のサークルに入りづらい。自発的にサークルをつくってやるのは少ないのではないか、公民館の主催事業をきっかけにサークル化するというパターンが多い。サークル作りに力を入れてもらえればと思う。

事務局 主催事業を計画する際は、これらを念頭において実施している。幕張公民館の場合、昨年度「声を出して朗読する楽しさを学ぼう」を実施し、一部の人たちが

残ってサークル化している。今年度は「Let's-Try 誰でも出来るおもちゃ修理」を実施したが、実施回数が少なかったこともあって、講師をしていただいた方が活動している場所で、引き続き技術習得中である。今後幕張公民館でサークル化してもらい、そこで「おもちゃ修理」のボランティア活動をしてもらえればと思っている。この後も「楽しもう！写真撮影」の受講修了者によるサークル化、「広報誌をつくってみよう！」についても公民館だよりを作るサークルに発展できればと計画している。開講式でその事業の「ねらい」を挨拶する際に話し、受講していただくようにしている。

委員 公民館で主催事業という種をまくことは必要なことである。ある程度連続した講座でないとサークル化しない。わずかな報償費をそちらの方へ集中して主催事業から輪を広げることが大事だ。陶芸にしても男女問わず人気がある。しかし、窯がなければ「陶芸教室」を実施したところでサークル化しない。そこはぜひ公民館で用意してもらいたい。

委員 幕張公民館の「おもちゃ修理」は子ども連れのお母様方がふらっと来ておもちゃを修理してもらおうというイメージだろうが、きっかけがないとなかなか来ることがない。何か異世代間交流のような講座等があれば公民館自体も賑わうと思う。資料を見ると世代が限定されてしまっている気がするのだが、異世代間交流のような講座等を2～3事業できないか。

事務局 今年度すぐにというわけにはいかないが、「おもちゃ修理」は、壊れたおもちゃは処分しないで幕張公民館に行けば直してくれるよといったような活動を根付かせたいと思い実施した。しかし回数が少なかったため、別の場所で技術習得中である。公民館へ再び戻ってくるかどうか分からないが、そういう意味では種が撒けたと思っている。

委員 こういう点ではストーリーをもって事業展開している  
ので、大いに参考にすべきだと思う。

事務局 また、幕張公民館では小学生を対象とした「夏休み  
まなび隊」の中でクラブ連絡協議会の協力のもと、  
サークルを体験してもらおうと計画している。

委員長 公民館へ足を運んでもらうということから始まる  
ので、ぜひこういう機会にきっかけ作りをしてもらい  
たい。

委員 広報誌を作成してみる講座等々の企画はすごく良い  
と感じた。一方で「陶芸教室」を実施してみたものの  
諸般の事情でサークル化できなかったというのを  
聞き、難しいなと感じた。

委員 幕張本郷公民館で中学生向けに実施した講座が出席  
状況が芳しくなかったため、今年度計画からはずした  
ということだが、時間を変えたり、科目を変えて実施  
する予定はないのか。

事務局 中学生は部活動をしている生徒が80%以上おり、  
また塾に通っているなどでなかなか公民館に足を  
運んでくれない。図書室があればそこへ来ることは  
あると思うが、図書室がないところは厳しい。ただ  
「小学生、英語にチャレンジ！」は、その後、サーク  
ル化したので、そこから小学校を卒業した子が、中学  
生としてそのサークル活動に参加をするというのが  
広がってくれば、新たな開拓ができるのではと考  
えている。これをやっていただいた講師が国立大学出身の  
外国籍の方でもあり、英語以外の科目は難しい。

委員 例えボランティアであってもそういう素晴らしい方  
が講師であるというPRも大事なのではないか。

委員 中学生だけを対象に講座を実施したのは幕張本郷公民  
館だけでなかろうか、中学生対象の主催事業が集ま  
らないのは、どこに問題があるのかをよく考えない  
といけない。ただ参加が少なかったから、中学生対象は  
やらないというのは時期尚早だと思う。

- 委員 「パソコン講習」を実施する場合、定員10名のところを40～50名応募があるということだが、物理的にこれが限界なのか。
- 事務局 生涯学習センターから借りて実施しているが、パソコン自体の台数が限られているのと、講師が一度に見られる人数の関係でそのくらいが限界である。
- 委員 パソコンを使ったことのないある年代層以上の人でやってみたいという人は多い。多少費用を取ってでも回数を増やすことは可能なのでは。
- 事務局 主催事業では資料代を取るだけで講師の派遣料まで負担することはしていない。また生涯学習センターから派遣してもらっている講師も市内各公民館を回っているのも物理的に限界である。
- 委員 公民館の一丁目一番地は予算、施設設備、人事である。特に予算に至っては4～5年前と比べて1/4程までに減ってしまっている。主催事業について受益者負担だとか工夫してやらないと話が進まない。市内でもあちこちの施設で有料化している。公民館も数年後、利用者が負担するようなことが考えられる。「第4次千葉市生涯学習推進計画」を立てる際の調査では、相当数の人が「受益者が負担してもよい」という結果がある。主催事業についてすべて公民館が負担するのではなく、受益者負担も考えるべきなのではないか、ぜひ内部で協議して、来年の3月までには聞かせていただきたい。
- 委員長 この問題は一部で議論しても市全体でどう方向づけるかによると思う。コミュニティセンターも有料になり、いずれその波は公民館にも来る。
- 委員 公民館の趣旨を理解して利用していればいいが、無料だからといって単なる部屋貸し状態で使っているところが散見される。これだけ費用を使っているのだから崇高な精神のもとに運営していかないといけない。そういう徹底も必要ではないか、趣旨に賛同しない利用者には貸さないぐらいのことも言わ

ざるを得ないと思う。

委員 員の 私のところの地区には公民館の隣に高齢者向けの福祉施設があり、両方に似たような趣味的なサークルが活動している。そういうような状況がいいのか、地域に対してのそれぞれの役割が見えてこない。限られた予算の中で人の配置も含めて予算だと私は考える。今の公民館の職員配置を見ると民間では考えられない。公民館に職員を配置したところで仕事が足りるという運営にしか見えてこない。館長ポストについても行政職経験者や学校長を経験した人がなったところで互いに持っているものが違う。改善していかないと今後公民館等が地域に根差した有効な施設になっていくのか疑問だ。

委員長 はこちらにいる各館長さんたちはそういう立場にない。ただ主張していくことは大事だと思う。様々な議論が出たところで各公民館に置かれては、遅滞無く公民館事業に取り組むようお願いする。

### (3) その他

委員長 その他について何かあるか。

笹本館長・松尾副館長 参考資料についての説明。

また平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」において公民館も避難場所となり、避難者の受け入れがあったことを報告した。

委員長 質問をもとめたが特になく、審議会の終了を宣言。

第7 閉会のことば（笹本館長） 長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。貴重なご意見をこれからの公民館運営に参考とさせていただきます。

閉会 15時30分

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部幕張公民館  
電話 043-273-7522